

平成26年度 水道事業決算状況

1 事業の概況

(1) 給水状況

平成26年度における給水人口は590,197人で、平成25年度に比べ4,706人(0.80%)の増、給水世帯数は268,363世帯で、前年度に比べ4,325世帯(1.64%)の増となりました。

また、年間配水量は64,217,205 m³で、平成25年度に比べ446,650 m³(△0.69%)の減少となり、有収水量は57,770,299 m³で、有収率は89.96%となりました。

(2) 建設改良事業

平成26年度の拡張事業は、1,027,805,548円を投じ、安定給水の向上と災害時等の給水対策のため、管網未整備路線の出水不良の改善と区画整理地区において管の布設を必要とする箇所を対象に配水管布設工事を行い、口径75~600mmの配水管6,555mを布設するとともに、浄配水場整備工事費として、神根浄水場受水池耐震補強工事、横曽根浄水場小水力発電設備設置工事を行いました。

一方、改良事業では、2,735,365,187円を投じ、老朽铸铁管等の更新のため配水管布設工事として、口径75~600mmの配水管等10,136mを布設するほか、老朽化した施設の更新のため浄配水場整備工事を実施しました。

改良事業の浄配水場整備工事は、平成26年度から平成27年度の2ヶ年継続事業である神根浄水場場内配管布設工事を始め、神根浄水場取水・末端圧テレメータ更新工事、上青木浄水場3号井掘替工事、石神配水場配水次亜注入設備更新工事等を行いました。

2 経理の状況

(1) 収益的収支の状況(消費税及び地方消費税抜き)

平成26年度から新地方公営企業会計制度(以下「新会計制度」という)が適用された決算となり、収益的収入における総収益は11,649,175,657円で、前年度に比べ556,795,446円(5.02%)の増となりました。この増加の主な理由は、新会計制度の適用による長期前受金戻入及び特別利益の修繕引当金戻入益によるものです。

一方、支出に係る費用総額は10,510,660,468円で、前年度に比べ458,820,354円(4.56%)の増となりました。増加の主な内容は、収益的収入に同じく新会計制度の適用によるもので、特別損失において過年度分の退職給付引当金の未計上額によるものです。

以上、収益的収支において当年度純利益1,138,515,189円の計上となりました。

(2) 資本的収支の状況(消費税及び地方消費税込み)

資本的収支の総額は5,154,968,208円で、内容は建設改良費3,771,580,975円と企業債償還金1,383,387,233円で、これに対する収支総額は1,177,816,404円で、内訳は、企業債900,000,000円、国庫補助金178,804,000円等となっております。

これに伴う収支不足額3,977,151,804円は、減債積立金920,000,000円、過年度分損益勘定留保資金2,800,249,147円及び平成26年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額256,902,657円で補てんしました。